

会 議 報 告 書	
会 議 名	平成30年度第1回草津市社会教育委員会会議
日 時	平成30年11月15日(木) 自 10時00分 至 11時45分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委員：委員長、副委員長、伊庭委員、浜田委員、北川委員、 飯田委員、石本委員、鈴木委員、小寺委員、山本委員、 鈴鹿委員、永野委員、武井委員、大東委員 事 務 局：相井生涯学習課長、宇野生涯学習課係長 奥田生涯学習課主任 傍 聴 人：なし
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無

1. 教育長挨拶

2. 委員、事務局から自己紹介

3. 委員長、副委員長の選任

【生涯学習課長】

委員の皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして、2年を1期とする当委員会の会議の委員長と副委員長の選任に移らせていただきます。

お手元の資料2、2枚目を御覧ください。草津市社会教育委員設置条例第5条にありますとおり、委員長と職務代理者となる副委員長をそれぞれ1名、委員の皆様の互選により選任することになっております。

選任の方法につきまして、どのようにさせていただいたらよろしいでしょうか。

【F委員】

事務局一任でいかがでしょうか。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。今、F委員に御発言いただきました。ただいま、事務局一任とお声があがりましたが、皆様、よろしいでしょうか。

(拍手)

【生涯学習課長】

ありがとうございます。

それでは、事務局より、御提案をさせていただきます。

【生涯学習課 係長】

事務局案として、委員長にA委員、副委員長にB委員を推薦いたします。

A委員におかれましては、現在、滋賀大学社会連携研究センター教授として、生涯学習教育政策に関する研究に取り組んでおられ、社会教育面でも深い見識をお持ちであることや、平成28年度から、草津市社会教育委員の委員長を務めておられますことから、引き続き委員長として御就任いただければと考えているところでございます。

B委員におかれましては、滋賀県立図書館の司書として30年余り従事され、現在は、京都産業大学文化学部の客員教授として図書館学を専門分野とされておられます。また、平成26年度から草津市社会教育委員を務めておられ、豊かな経験をお持ちいただいておりますことから、副委員長に御就任いただければと考えているところでございます。

【生涯学習課長】

それでは、事務局から提案させていただいた案を御承認いただける方は、挙手をお願いいたします。

(挙手 全員)

【生涯学習課長】

挙手全員のため、委員長をA委員、副委員長をB委員をお願いいたします。

それでは、委員長、副委員長から一言ずつ、就任の御挨拶をお願いしたいと思います。

まずは、委員長からお願いいたします。

【委員長】

皆さん、改めまして、おはようございます。委員長を仰せつかりまして、まことに僭越ではございますが、今、社会教育を取り巻く環境というのは、全国的にもワーキングとして非常に厳しい状況になっております。

今年の去る10月16日から文部科学省の組織再編がありまして、その中で、実は、社会教育課は廃止になりました。地域学習推進課というものになりました。時代に即した新しい社会教育というものを考えていかないと、私は、我が国の社会教育は衰退の一途をたどるだろうと思います。ぜひ、皆様の皆様による皆様のお力をいただきながら、草津市の社会教育をこれからも推進させる。そう思って、今やっております。

どうぞ皆様、よろしくお願いいたします。

【生涯学習課長】

ありがとうございました。続きまして、副委員長からお願いいたします。

【副委員長】

今回3期目ということで、随分と長くやらせていただいております。昨期、委員長に随分と御尽力いただきまして、成果をまとめていただきました。今年度も出来るだけ委員長をサポートしながら、お役に立てる部分があればと思っておりますので、どうぞ御協力をお願いいたします。

【生涯学習課長】

委員長、副委員長、ありがとうございました。

ここで、公務により、教育長と教育部長はこの場を退席させていただきます。

(教育長、教育部長退席)

【生涯学習課長】

それでは、議事に移ります。

以後の進行につきましては、委員長にお願いをいたします。委員長、よろしく願いいたします。

【委員長】

ここから私が司会進行させていただきます。

それでは、審議に入ります前に、本審議会の公開、非公開の取り扱いというものがございまして、事務局から説明をお願いいたします。

【生涯学習課 係長】

本委員会議は、市民参加条例第9条第1項に基づき公開することとなっております。ただし、会議において取り扱う情報が非公開情報に該当するとき、または、第3号の定めにより、会議を公開することに公正かつ円滑な議事運営に支障が生じると認められるときは、非公開とすることができることとなっております。

本日の議題は、これらに該当いたしませんので公開審議と考えております。

【委員長】

ただいま、御説明がありましたように、別に隠すものはございませんので、公開とさせていただきますと思います。皆様、よろしいでしょうか。

それでは、公開とさせていただきますと思います。傍聴の方はいらっしゃいますか。

【事務局】

本日は、傍聴者はいらっしゃいません。

【委員長】

では、傍聴人がいらっしゃらないということなのでという御説明がありましたので、次第に沿って進めてまいりたいと思います

それでは、本日は、第1回目ということでございますので、次第の資料にもございますように、社会教育委員会とは一体何をしているのか。ベテランの方もいらっしゃいますけれども、どのような役割を担っていただいているのか。それから、生涯学習課では皆さん、どういう事業を展開されておられるのか。そして、今年度の計画はどのような計画であるのか。また、昨年度からの委員の方も何名かいらっしゃいますけれども。我々が社会教育委員会としてやってきたことも踏まえて、まず、今日は皆さんと確認をしたいということでございます。

それでは、最初に社会教育委員の職務について、事務局から御説明をお願いいたします。

【生涯学習課 主任】

社会教育委員の職務について御説明させていただきます。資料2と書かれました資料を御覧ください。

第15条に都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができると記されており、その役割は、第17条に記されているところでありますので参考にさせていただきたいと思っております。

第15条に記載がございますが、社会教育委員は、任意で設置することができます。草津市では、次のページの草津市社会教育委員設置条例により、委員定数は20人以内、任期は2年となっております。

社会教育委員は、教育委員会から委嘱を受けた非常勤の特別職の地方公務員として、地域住民と行政の間で地域の学びのニーズを教育行政に伝える役割をもっております。

本日のように、会議という形で意見をかわすだけでなく、独任性で各自の活動を通して、研究調査を重ねていくことも大切な活動となっております。

こうした形で、社会教育委員の皆様の思いを市政に反映していくことで、一人一人が生きがいをもって暮らせる社会づくり、地域学習活動の充実を進めたいと考えております。

【委員長】

どうもありがとうございます。

社会教育委員というものは、社会教育法上は、任意設置でございますので必置ではございません。ですので、今、自治体の中で設置しない自治体もございます。

しかしながら、本来は、教育行政の中で学校教育と並ぶのが、社会教育。両輪という立場から考えたら、当然、設置されてしかるべきであります。

社会教育委員の職務ということも御紹介にありましたけれども。かつては、かなり権能がありましたが、近年、非常に緩やかになってきまして、助言といいますか、政策全般に対しまして、調査研究の組織となっております、絶対的な権限をもっているとは言えない状況でございます。

しかし、公共の行政委員会の一つとしまして、かなり、尊重はしていただいている

すので、我々は委員として選ばれた以上、何らかの形で社会教育行政に対しまして、きちんと発言をしていき、教育委員会あるいは、市長に伝えていくということが非常に重要になってくるかなと思っていただきたいと思います。

なにか、御質問等がございますか。進めて行く中で、また御不明な点等ございましたら、何なりと御質問いただきたいと思います。

それでは、続きまして、先ほど申しましたが、平成30年度生涯学習事業について、事務局より御説明をお願いいたします。

【生涯学習課 主任】

それでは、生涯学習課が所管しております事業につきまして、平成30年度の概要を御説明いたします。

事前送付させていただきました資料の「平成30年度草津市の生涯学習事業の概要」を御覧いただきたいと思います。横向きの、こちらの資料となっております。

こちらの表紙をめくっていただきまして、生涯学習の推進としまして、市民一人一人が、心豊かで生きがいのある生活を送り、より活力のある地域社会を築くために、当課では、生涯学習推進に向けた事業に取り組んでおります。

一つ目の地域協働合校事業では、学校での活動や地域の行事などを子どもと大人がともに取り組み、学び合い、関わり合うことで、子どもの健全育成とともに大人の社会参画の機会として、地域を支える人づくりを進めております。

活動例としましては、右の写真にあります、田んぼで育てた稲を一緒に収穫したり、地域探検、竹パンづくりなど、学校・地域ごとに工夫し取り組まれています。

次に、「学習ボランティア推進事業」として、冊子「草津市ゆうゆうびとバンク」の発行を行っております。職業や趣味などで身につけた知識、技術を生かし、社会参加を促すための学習人材バンクで、地域協働合校や、地域での老人会や子ども会活動の際に活用いただいております。

次に、「生涯学習機会の提供」といたしまして、市が行う講座やイベントなどの情報をまとめた学習情報ガイドブック「誘遊友」を発行しております。お手元に緑色の冊子を配布させていただいております。

また、大学との連携事業として、立命館びわこ講座を開設しています。毎年、秋に5回連続講座として行っており、「近江を学ぶ 草津を織る」をテーマに、滋賀・草津に関する歴史や文化、食などさまざまな切り口で知識を深めていただける講座となっております。

資料をめくっていただきまして、「地域における生涯学習の推進」について、地域それぞれの学習ニーズ、課題に応じた持続可能な生涯学習活動を進めるため、人材育成のための講座開設を行うほか、草津市の生涯学習本部機能を強化させるために、職員の社会教育主事資格取得を行います。

次に、「家庭教育の推進」について、生きていく力を育む拠点である家庭教育の推進のため、学習機会の充実、促進を目的に、単位PTAが家庭教育学習活動を行う際

の補助金の交付、食育などの出前講座、家庭学習を進める家庭教育サポート事業を実施しております。

次に、「青少年の健全育成」について、これからの社会を支える青少年の健全育成に努めております。

次に、「成人式の開催」について、社会人として一步踏み出す若者の激励と自覚を促す機会とするほか、地域、団体、学校、警察、行政といった「関係機関の連携」を深め、情報共有をはかるため、青少年問題協議会を開催しています。

資料を1枚めくっていただきまして、「青少年健全育成運動の推進」についてです。

学校、家庭、地域の連携を深め、地域での取り組みをより推進するため、草津市青少年育成市民会議の諸活動を支援し、青少年健全育成活動の推進を図っています。

写真は、青少年の主張発表大会、宿場まつりでの啓発ブース、家族ふれあいサンデーの絵画展示の様子です。

最後に、「社会教育促進事業補助金」について、本市における社会教育の振興を図るため、社会教育関係団体が行っております事業に要する経費に対し、予算の範囲内で補助金を交付しております。お示しいたしましたのが、社会教育促進事業補助金の一覧となっております。

【委員長】

ありがとうございました。

取り組まれた内容が、具体的に草津市さんとしてやられている生涯学習事業。細かく言うと、もっと存在すると思いますが、具体的な事業を挙げていただき、こういうことをやっておられるということでございます。

大体、イメージが掴めたでしょうか。何か御質問があれば、受けたいと思います。

私から一つお聞きしたいのですけれども。これは、財源的には市単独の一般財源がほとんどです。例えば、国から県から補助が出ているような財源がありましたら、御紹介いただきたいと思います。

【生涯学習課長】

補助金につきましては、先ほどお渡しいたしました資料の1ページの「地域協働合校推進事業」につきましては、補助金を一部いただいでの執行としております。

【委員長】

補助金は、大体、何分の1とありますか。

【生涯学習課 主任】

補助対象事業費の3分の2が補助金となっております。

もう一つですが、家庭教育の促進といたしまして、次をめぐっていただいたところにある「家庭教育サポート事業」におきまして、県の補助金をいただいて執行してお

ります。

【委員長】

はい。県の割合は何%ですか。

【生涯学習課 主任】

これにつきましては、2分の1となっております。

そのほかは、市の単費ということとなっております。

【委員長】

これだけの事業を展開していくというのは、大変予算がかかるということです。

予算が厳しくなっている中で、草津市として何ができるかということですね。何もかもできればいいのですけれども、何もかもできない時代になっていく中で、草津市は、一体何に力を入れていくかといったところが問われている。これは、全国的なことなのではございますけれども、このような視点でも委員の皆様におかれましては、御確認をいただければと思います。

【J委員】

地域協働合校ですが、もう随分以前から、実施されていますよね。これは、当初、私もはっきりわかっていないのですけれども、地域と学校が協働するといったことでスタートしたような気がするのですけれども。

今は、流れとしてどういうふうな。当時、多分20年ぐらい前からだと思うのですけれども。そのあたり、どう、現状が変わってきたのか、お伺いしたいなど。

【生涯学習課長】

平成10年に地域協働合校、当時川瀬教育長という方が唱えられまして。それも、全国的にやはり目新しい取り組みで、学校と地域が連携して共育ちの中で人が育つというような理念のもとにスタートしたものです。

当時、子どもはやはり地域で育む分も大いにあるだろうと。最終的には、地域リーダーになる方もたくさんそこから輩出されるべきことなので。そういった部分では、学校では経験できないことを地域で経験させようという趣旨で始められたと聞いております。

現在、ちょっと時代が変わってきまして、コミュニティースクール。学校の取り組みの中に地域のいろいろな知恵、経験を生かしていこうという流れが今あります。草津市もその方向で、学校教育課、あるいは、学校政策課、生涯学習課が協力し合いながら、子どもたちの育みを大いに推進しているところです。

今、学校現場、教員の過労度というのか、色々なことを教員はされておりますので、働き方改革の中で、教員ではできないこと。特に、地元の方々の知恵や経験を生かし

ながら進めていくべきことについて、それも、教科、主要教科も含めてですけれども。学校の教科に密接した関係の中で、地域の方々の御経験やお知恵を活用するという中で、今、進めているところです。

【委員長】

ありがとうございました。私から補足させていただきますけれども。

J委員よくご存じいただいているように、今から20年ほど前、文部科学省自体、言ってみれば功罪があるのですけれども。学校教育の近いところの社会教育ということに、かなりシフトしたということがありまして、その後、この事業は文部科学省の事として、学校協働支援法。そして、今、学校協働法ですかね。という名前に変わってきております。

ここに代表されるように、学校教育に近い子ども期のところの義務教育を中心とした社会教育というのが、文部科学省の生涯学習政策の中心になってしまったという面もあります。

本日の後半の議題にもなっているのですけれども。委員の皆さんの中にも、学校や学校に関連した現場でお仕事されている方も多くいらっしゃるわけですので。

文部科学省の今の国の生涯学習施策としましては、実は、我が国は成人教育ですね。学校期だけではないですね。その後の成人教育、それから、高齢期、あるいは、学校就学前の幼児教育。こういったところ、全部を差して生涯教育というのですけれども。その学校教育以外のところというのは、非常に手薄になってしまっているというのが、実は、我が国の生涯学習施策、社会教育施策の、私は欠陥だと思います。

そういう中で、もちろん、学校と地域の関係というのは非常に大事なわけですけれども。学校教育からそれを眺めるのではなくて、やはり、地域がどう今後、地域全体のコミュニティの維持し、高齢化社会、人口減少社会を乗り切るかが重要であると思っています。

そういう中で、学校と地域がタッグを組みながら、いかに子どもを育てていくか。あるいは、子どもだけではなくて、そこに関わることによって、成人、大人、地域の皆さんがいかに成長していけるか。そういうことも含めて生涯教育を考えないといけないというのが、今の生涯学習制度における問題意識だと思っています。

そういうことを、前提にしながら、実は、この数年間、これからお話、次の議題になるのですけれども、この草津市における生涯学習の仕組みというのをきちんと構築しようじゃないかということを、実は研究してまいったのです。

【H委員】

私は、本質的な話にならないと思いますけど。

最後のページの社会教育促進事業の団体が補助を受ける基準は何かあるのでしょうか。

それと、私は、歴史がたまたま好きなもので、草津市は歴史文化財がたくさんあるのに、それを見て回るというふうな会を作っておられるところもごぞいます。もうちょっと元気にさせてあげられるといいなと思ったりする中で、それが、ここにありませんので、ちょっと質問させていただきました。

【生涯学習課長】

社会教育関係団体なのですけれども。歴史がなかなかございまして。当初、今ほど団体の数がなかった。今、ここにあがっているのは、老舗といわれるような社会教育関係団体です。

昨今、委員長も県内、国内ですけれども、この問題を少しどうなのかという話を問題提起されておる事柄です。補助金につきましては、今、NPOさんをはじめ、いろいろな各種団体が社会教育推進のためにお力を注いでおられます。

旧来の団体だけが補助金をもらい続けることについて、今、ちょうど議論をさせてもらっておるところです。

もちろん、ここにあがっておる団体につきましては、みずからの団体の活動のみならず、リーダーを育てるための、特に、子どもを中心にされている団体もございますので。そういった団体につきましては、これからも横串でというか、会員だけではなくて、他のリーダー育成についてもお関わりいただけるような流れを作っていかなければならないし。

また、ここに挙がっていない団体についても、目的を達成する部分については、この補助金の対象となりますことから、今後、これからののですけれども検討してまいりたいと思っています。

【委員長】

ありがとうございます。おっしゃるとおりでございまして、全国的な問題になっております。今までの伝統的な社会教育団体、子ども会だとかボーイスカウトとか、いろいろありますけれども。そういった既存の社会教育団体に、いってみれば、毎年何の審査もなくずっと長年、何十年と補助金がありますということが分かったのです。

そのことに対して、今、いろいろなNPOをはじめ、いろいろな市民活動団体から、同じような社会教育をやっているのに、一方ではお金が出て、我々はないのかと。これはどういうことなのか。どういう基準に基づいて支払われるのですかと。こういう批判が、全国に噴出をしております。

私も、今年、県の社会教育委員長も仰せつかりましたので、このあたりを改革しないといけないということで考えております。

まずは、基本的には、やはり財政難があります。ですから、まずは一旦一律カットです。まず、平等に、補助金そのものをやめようじゃないかと。色々な支援の仕方があるので、お金を出すことだけが支援ではないという考え方が一つです。

二つ目には、これだけの予算があるのであれば、きちんと審査基準を設け、そして、

審査会を設けて、申請方式にして手を挙げていただき、しっかりとプレゼンをしてもらい。そして、公明正大なメンバーによって、審査を行った上で補助金を支出する方法に切りかえてもらう。競争方式を取り組むというような改革の進め方にする自治体も増えてまいりました。

草津市におきましても、おっしゃったように、今後我々の委員会としても、この問題を少し考えていく。この意味がある話題を考えていくときがくるのではないかと思いますので。どうか、また、皆さん、そこは少し考えておいていただきたいと思います。

【委員長】

それでは、続きまして、昨年度まで何をやってきたかといったところに関わってくると思いますが。それと、それを踏まえて今年度の計画というところにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【生涯学習課 係長】

事前に配布させていただきました資料の「体系的な生涯学習システムの構築」、こちらの縦向きの冊子の3ページを御覧ください。

ここでは、社会教育委員が把握されている現状と課題を掲載しております。枠内に意見をまとめておきまして、幅広い世代に視点をあてた施策が必要という意見がございました。

担い手といたしまして、社会教育活動を支える人と相談や議論ができる場面をつくることの大切さや、地域デビューする人を発掘、育成しても、そのような方々にいろいろな役が集まり、これが原因で地域デビューする人が出てこないといった現状。そして、公民館から地域まちづくりセンターに移行されたものの、人材が育っていないという意見がございました。

最後に、役割ですが、「地域における豊かな学び」を進めていく上で、市の生涯学習に対する方向性が示されていない、「地域の実情に合わせ課題解決のための学びを深めていく」ため、市民の主体性を求めると同時に、行政が担うところと方向性を示す役割を果たさなければならないが、挙げられております。

続いて、6ページ、7ページを御覧ください。提案の本編となります。

市が提供する学習機会は、生涯学習以外にも環境、健康、福祉、防災、まちづくり等関係課がそれぞれ熱心に行っておりますが、市民目線で見えた場合、学習情報が市民に見えにくいことが課題の一つとしてあります。

市民にとって、学びの気づきと選択肢が増えることは、今以上に学習意欲を生かし、各地域のまちづくりに繋げるための（仮称）「草津の未来を創るカレッジ」を研究、提案されました。

同じく、6ページの下段の図を御覧ください。提案の全体像となります。

ここでは、地域の人材育成のための仕組みを提案されており、ここでいう「本校」

「地域校」は、仕組みのイメージでございまして、新たに建物を建て、そこで開講するといったものではございません。

「本校」とは、市域全域を対象に人を集め、今度、地域人材を育成するための学習を提供します。リーダー育成のための学びとなります。

これからの草津を創っていく地域の指導者となる人材を育てるために、3つの目的別の学科を設定されております。

7ページの中段を御覧ください。

一方、「地域校」とは、最終的には14の地域まちづくりセンターが、学習の拠点となることを想定されております。本校の各コースを学んだ人たちが、仲間と協力し、自らの地域で自発的に学びを推進していくことが「地域校」となります。

ここでは、「地域を知る学習」や、環境、防災、福祉など、実践的「課題解決の学び」、自分の学びだけでは終わらず、実践できる場所を用意した「地域人材の育成」の学びを進めていただけるものと考えているものでございます。

ただ、「本校」「地域校」とも、限られた人材で進めることは困難であります。地域の活動に携わっておられる多様な主体との関わりや、社会教育委員皆様の協力をいただきながら進めるといった提案となっております。

このような中、各地域まちづくりセンターの現状を知るため、今年の夏ごろに事務局である生涯学習課が13の地域まちづくりセンターに伺いまして、課題を含めた御意見を頂戴してきたところでございます。

頂戴した御意見の一部を3点御紹介させていただきます。

1点目は、多くのまちづくりセンターから課題としてあがってきたものとなります。講座を開設しても、参加者が固定化されており、次の時代を担っていただけるリーダー候補の参加や、子育て世代の参加が見込めず、地域の中でも人間関係を築く機会が非常に少ない。いろいろな世代との交流が必要であるということでした。

2点目は、平成29年4月に指定管理を受け、地域において地域まちづくりセンターを運営されておりますが、まだノウハウが蓄積されていない。前年と同様の業務を進めるだけで、センター職員自身に余裕がない。その中で、新しいことを考える時間や実施するだけの人員をあてるのが難しいということでした。

3点目は、指定管理を受けて、地域のことは地域で責任をもって運営されるという理念のもとから、行政から何かを依頼して受けるという仕組みではございませんので、地域の負担になるようなことは避けてもらいたいなどの意見を頂戴しております。

【委員長】

この背景は、先ほど教育長のお話にもありましたように、14地区に地域まちづくりセンターがあるわけですが、以前は公民館であったりするわけですが。そこが地域まちづくりセンターになったと。そして、同時に、まちづくり協議会にその中身、事業等の運営を任せるという事となりました。

その中で、やはり、もともと公民館がやってきた、してきた社会教育はどこにいっ

てしまったのだということもございますし。それから、やはり、従来の社会教育、公民館のおやりになったことだけではなくて、新しいまちづくり協議会を中心とした地域を担っていく人材育成というのを、どこがやられているのか。それに対応する講座や研修はどこで行っているのか、といったことに対しまして、これは生涯学習課だけの問題ではなく、草津市全体が問われているわけです。そういった学習体系というものが、きちんと構築されていないのではないかと。

一つの提案として、みらくるカレッジという名称も案として出ておりますけれども、学習体系をしっかりと創っていかうではないかということの御提案をさせていただいているというのが、当会議の前期の提案書でございます。

ところが、やはり、非常に体系的、伝統的、原始的な、ある意味、壮大な取り組みを提言しているものですから、なかなか現実的にはこれを進めていくというのは、非常に困難であるというのが、現実なのですね。

そこで、今年度からまた来年も、少しでも進めていただくために、モデル事業というものを実施していったらどうかというのが次の議題なのですけれども。

そういうことで、こういう今、御提案をさせていただいているといったところ。まず、皆さんに御協議をしていただきたいなと思います。

前期の委員をやっていたらっしゃる皆さんは、よく御存じいただいているわけでございますけれども。今期になられた方は、初めてで分からない部分もあると思います。この時点で御質問等はございますか。

【J委員】

私も、いくつかの会に参加させてもらっておりますが。やはり、高齢化が進んで、議論はそれなりのいい話が出ているはずなのですが、後継者を考えた場合に話はそこで止まってしまいます。ですから、私はリーダー育成という取り組み、前期の方々は非常に御苦労なさって良いまとめをしていただいたなと思います。ぜひ、これを実現に向けて努力しないといけないなと。

ですから、そこへ計画はできたけれども、これはPDCA。計画までいったけれども、どう回していくのかというあたり、今、お話がございましたけれども。あるような気もするので、ぜひ、これはそれをかいくぐってでも、何かいい方策を見つけて、どこか一部からでも手をつけていったら。そんな意見です。

【委員長】

本当に、もうおっしゃっていただいているとおりでございます。やはり、先ほど申し上げましたが、生涯学習課さんだけでは完結できないのですね。まちづくりは、まちづくり協働課でしたかね。そこが、地域まちづくりセンターとかの所管をしているわけなのです。そういうところの御協力なしでは、全く進まないわけなのですよね。

あと、この地域の問題というのは、J委員がおっしゃるとおり、高齢化の問題や福

祉の問題や方策の問題や、色々な問題があるわけですから。全庁的に取り組んでいかないと、生涯学習課さん、そして、我々社会教育委員会の方面からだけで一生懸命訴えても、なかなか進んでいかないということがございますので。

だから、今、エールを送っていただきましたように、やはり、我々がどんどん少しでも口火を切っていかないといけないという思いで、今期から皆さんと一緒にそれを後押ししてあげたらなど、こういうふうに思っております。

そうしましたら、次の今年度以降、どういう計画をしているのかということにつきまして、事務局の御説明をいただきたいと思っております。その後で、皆さんの御意見をいただきたいと思っております。

【生涯学習課 係長】

資料の3を御覧いただきたいと思っております。3枚物でワンセットになっております。

昨年いただいた提案の中では、本校で学んだことを地域校で広げていただくという提案でございますが、地域の実態に合った講座を本校に用意しなければ、地域校で生かしていただけないのではないかと考えておりました。

まずは、本校の講座を考えるに当たり、事務局側で作成いたしました「パイロットモデル案」というものをベースに、実際に地域まちづくりセンターに伺って、地域の課題を反映させるため、地域と一緒にパイロットモデル案づくりを進めたいと考えているところでございます。

実際に、パイロットモデル案については、平成31年度から幾つかの地域で推進していただければと考えているところでございます。

それでは、事務局で考えておりますモデル案について、御説明をいたします。

この資料のイメージを御覧いただきますと、パイロットモデル案というものがございます。パイロットモデル案は、既に行政や関係機関が実施している講座、「みんなでトーク」、「人材バンク」情報から講座を組み合わせ、地域の課題解決に向けた体系的な学習機会になればと考えているところでございます。

パイロットモデル案のコンセプトといたしましては、大きく2点ございます。

1点目は、地域住民のつながりを創出するため、これまで地域まちづくりセンターを利用されたことがない方に利用していただく機会とする。

2点目は、行政が一方向的に考えたものを地域に押しつけるものではなく、一定、方向性を地域にお示しした上で、地域が主体となって講座の組み立てを考えていただき、地域の実態にあった体系的な学習の機会になればと考えているところでございます。

その中で、大きくテーマとして3つ考えております。「防災」、「環境」、「子育て」で案を提示しております。

「総論・各論・ワークショップ」などの形については、地域において変更が可能な仕組みとなっておりますので、内容によっては、2つの講座で完結するものも想定されます。地域の実態に合った講座の体系にしていいただければと考えているところでございます。

2枚目以降を見ていただきますと、具体的に既存の事業や講座等の並びかえを行ったものがございますので。参考に御覧いただければと考えているところでございます。

再度、イメージに戻りますが、より専門性を求めていただける地域におきましては、図書館司書や、学芸員、大学、企業などの橋渡しを、当初は生涯学習課が行うことにより、より深い学びの機会が創出できるのではないかと考えているところでございます。

また、実施していただいた地域のみで完結するものではなく、いい事例等については、生涯学習課がほかの13地域に向けて広報活動を行って、興味をもっていただき取り組んでいただければと考えているところでございます。

広報の媒体につきましては、「えふえむ草津」や「ニューズペーパー」「ホームページ」などで情報発信して取り組みを少しずつでも広げていければと考えているところでございます。

【委員長】

どうもありがとうございます。

先ほど申し上げましたように、体系としてはみらくるカレッジ、いろいろな分野を想定しているわけですが。いきなり始めていくというのはなかなか難しい。そして、本校と地域校、それぞれのまちづくりセンターですね、地域校ということになるわけですが。

それを一度に進めていくというのは、なかなか難しいということで。分野を少し絞って。そして、なおかつ、具体的な学習体系というのをパイロットモデルということですが、モデル事業として、ある特定の地域で、特定の分野で、まずおやりになっていただいて。そして、それを普遍的にほかの地域でも広がるように、前例モデルというのを創っていきたいというのが、簡単に言うと、そういうことの御提案だと思います。

ここからは、ちょっと委員の皆様から、特に、この今期からやっつけようとしておりますモデル事業を中心としながら、生涯学習事業全般にわたってのことでも結構でございますので、皆様から、御質問や、あるいは、現時点で思われているようなことなどを意見交換して、30分程度でございますが、進めていきたいと思っております。

【L委員】

この資料を数日前に送っていただいて。みらくるカレッジについては、前からパソコンで読ませていただいて、すばらしいなと思っているのですけれども。

今回、送っていただいたこのパイロットモデル案のテーマのところ。これをずっと見ておまして、社会教育っていうものの範疇からすると、青少年が欠落しているのではないかと。対象の、いわゆる、若人というのですかね。

子育てのところにあるのかということで見ましたが、非常に、幼児対象であって。やはり、青少年育成ということの基本は、幼児ではございませうし、お母様や

母親がいない家庭もありますから、いわゆる、家庭教育というものも、もちろん大事でしょうけれども。青少年対象が、ちょっとここでは手薄なのではないかなと勝手に思ったのです。それだけでございます。

【委員長】

事務局、お願いします。

【生涯学習課 係長】

今回、資料としてまとめているのは、3つのテーマですが、これで完成ということではなく、本日の社会教育委員の会議の中でも御意見をいただきながら、今、御指摘をいただいた青少年の部分や、足りない部分のテーマについては、追加をしていきたいと考えているところでございます。

【L委員】

ありがとうございます。

【委員長】

そういった御意見を、ぜひいただけたらと思います。

それでは、順番で恐縮でございますが。P委員から、何でも結構でございます。質問でも結構でございます。

【P委員】

初めてこの会議に参加させてもらいますので、勉強中というところが正直なところではありますけれども。

地域協働合校が学校と地域を連携して繋いでいった事業については、本当に教育、平成10年とかそんな以前から、草津が独自に小学校区と地域を結んだ学習を続けてきたわけで。それをもっと前面に出していこうとして、川瀬教育長が地域協働合校という名を打って取り組んだわけで。

今まで草津で積み上げてきたものを、草津が周りをリードするような気持ちで、草津型の地域協働合校をやってきたという経緯がありますから。突然、降ってわいたような取り組みでやったわけではなくて、今まで、学校と地域をつないできたものを、もう一度、それを前面に押し出す。それが、うまく時間割りとか環境の中にうまく入っているのかなという形があります。

ただ、小学校だったら英語教育なども入ってきて、総合学習の時間がどういうふうに使っていくかという悩ましい問題があって。今まで、田んぼのこととか、山のこととか、子どもたちにいろいろな学習をさせてきたことが、環境の中に入りづらくなってきているという悩ましい問題は確かにあります。

でも、各学校の裁量の中で、これまで地域と学校をつないできたという絆は切りた

くないし。子どもたちのためには必要なことですので。継続的に地域協働合校というのは、繋いでいこうとしているのは学校の現場のこれかなと思います。

高齢化の問題というのは、悩ましい問題で。いろいろな社会教育とか、いろいろな勘定をするときもそうですよね。上が多くて、下が少ないというか、若い人が少ないという問題がありますけど。

考え方を換えれば、高齢化の幅がふえてきているわけですから。別に、子育て世代からスタートしなくても、退職した後にスタートして学ぶ。それから、高齢者の中でも若い人を繋いでいけばいいというサイクルがあるのではないかなと思って。

子育て世代は、子育て世代にとっての繋がりは切っては駄目なのですけれども。社会教育という幅は、現役世代が終わったらすぐにあるのではなくて、人生100年と言われている話は、しっかり受けとめて。学び直しの時間というのは、本当に第二の人生だから幅広い、現役を引退してからも長い社会教育活動が展開されるというイメージで見ると、収縮するのではなく、発展的なイメージが随分あるのではないかなと、意識変革を図った方が良いのかなと思いは、強く思っています。

【F委員】

私も、去年、こちらで深く関わらせていただきまして、本当にこれがどう育っていくのか、ぜひ、見たいと思ひまして。三回目も委員をさせていただいているわけなのですけども。

先ほどおっしゃったように、この講座、カリキュラム自体が、草津市がやっている出前講座です。先ほど少し御紹介させていただきましたが、この「みんなでトーク」、こちらの中身を組み合わせる提供できるように考えられたということ。

そして、「ゆうゆうびとバンク」、生涯学習の学習ボランティアとして登録されている方々の中から、H委員もそうなのですけれども、そこからもピックアップされて、こういう地域の課題を解決するという問題について、このパイロットモデルを創られたというので、大変、案として素晴らしいのではないかと思っています。

それと、「ゆうゆうびとバンク」ああいうところに登録されている方々が大勢いらっしやいます。

その中でも、先ほどH委員が御紹介されました、災害ボランティアコーディネーターなど専門のところの方がいらっしやいます。この講座があるということ、私は、「えふえむ草津」というラジオ番組をもたせてもらっているのですけれども。その中で、実は御紹介させていただきました。こちらにも載せてくださっているのですけれども。こういう外に出るのがちょっと辛いという世代の方々にもお届けできるというのは、ちょっとラジオをひねっていただいたら聴いていただける。その場に集まって、まちづくりセンターに行って、みんなと交流して講座をするというのも、もちろんいいことだと思います。

その中から、またピックアップされたものを、そういうラジオを通してまた聴けるというふうに発展していくと、これがまた広がりとしてはいいかなと思っております

ので。これは、ぜひ、「えふえむ草津」をこれからもお使いいただければありがたいかなと、思っている次第です。

こういう講座があるよということを知っていただくというのも一つですし。中身がこういうことだったよということをお伝えするという、2つの役割があるかなとも思っていますし。それぞれのコミュニティセンターで行われたものを、「ここの地域でこんなことをやってはった。なら、ぜひ、うちの所でもやってほしい。」という横の広がりですね。これも期待できるのではないかな。大勢の方に聴いていただく、御担当の方に聴いていただくことで広がりも期待できるのではないかなと思っていて、これからが楽しみだなと思っています。

先ほど、L委員さんがおっしゃったように、いろいろな分野があると思います。その中でも、多分、高齢者の方と未就学児童が手薄になっているのではないかとおっしゃったところから、多分、せめられたのではないかなと。ピックアップされた内容になっているのではないかなと思います。

縦で世代間の、今まで出会っていなかった方々がお出合いできる。そこで、地域でこんな方がいらっしゃるのだなという、それぞれどんな方がいらっしゃるのかというのを、まず、地域まちづくりセンターは知りたいと思っていらっしゃるのでは。今まで、地域まちづくりセンターに来られなかった方々が、ちょっと顔を出そうかなという感じで来てもらえるような企画があったら、またそれはそれでいいのかなと思ったりもしています。

【K委員】

私は、今回初めて参加させてもらって、草津市がこんなにいろいろ考えておられて、色々な取り組みをされているのだということを知って感動したのですけれども。

私は、京都から滋賀県に嫁いできて、今、志津南学区に住んでおります。志津南学区のまちづくり協議会もすごく活発な方が多くて。最近、台風の後でも、次の日に地域を見回って、ゴミを拾うとか。本当に高齢者の方が頑張ってくださっているのです。

小学校においても、その高齢者の方が毎朝立ち当番やパトロール、稲刈りや刈った稲で御飯を炊いたり、食べるころまで携わってくださったり。地域が密接に関わっておられるなというのを思っております。

一方、マンションに住んでいる職場の同僚の子の話なんかの話を聞いていると、エレベーターで小学生に会って「おはよう」と声を掛けても無視される。それは、多分、家庭で知らない人から声を掛けられたら、近付かないというか、無視しなさいと教育されているなど。時代の流れですが、寂しい思いをしています。草津市でも、住む地域によって全然違うのだなということを思います。

正直、「えふえむ草津」というのがあるのも、本日知りました。

私たちは、やはり、小学校に入ったら働くお母さんがぐんと増えて。今、PTAの役員をやる担い手も少なくなってきました。そんな現状で。

だからこそ、いろいろな情報というのは、各お母さんは全然もっていないと思いま

す。回覧が回ってきても、中身を読まず印鑑を押してそのまま隣の家に回す。

なので、そういういろいろなことをされているということも、実際知らない人も多いので。こういったすばらしい情報媒体を利用すれば入ってきやすい。情報が入ってきやすいような環境作りが必要であると思います。

【L委員】

私は、実は草津生まれの草津育ちでございまして、なぜ、今、その話をしましたかという、今、K委員がお話しなさいましたように、地縁でつながっている社会に生まれて育ったのです。その中で、社会教育のボーイスカウトの中で育ったわけですが、非常に濃厚な人間関係が既にあったところで育ったわけですが、

都市化がどんどん進んでおりまして、個々、それぞれの人生を、それぞれの責任で送っていらっしゃる方が多くなっています。

そういう中で、非常に頑張っておられる方もいらっしゃいますけども、関心をお持ちの方以外は全く御存じないのが実情なのですね。

特に、マンションが多い地域は、顕著に現れます。そうしますと、本当にこれはすごくいいので、ぜひとも。実は面接にまいりましたときに、「みらくるカレッジはぜひとも実現させたい。」ということ、実は思ってお話をしたのですけれども。

草津市という市が抱えている大きな今後の未来に向けての問題は、そこではないかなと思います。いわゆる、地縁の高齢の方もおられた地縁の社会は、昔から人を一緒になって育てていた社会だと思うのですけれども。本当にたくさんマンションができて、たくさんの人たちが密集して育っている中で、つながりがどのようになっているのかなという感じがします。

話がそれてしまって申しわけないのですが。その「みらくるカレッジ」を、ぜひともと思った中で、10ページでしたか。支援組織というのがあって、その支援組織間の代表者会議みたいなものがあるのかどうかということを知りたいなと思っていました。

それがないと、なかなかこれを実行に移していくのに難しいだろうと。お互い、横の連携というのか、協力も必要であると思いつつ。ぜひとも、自分の住んでいるところに誇りをもちたいと思えるような人々の数がふえてほしいと思っております。

ちょっと話がそれましたけれども。いろいろな問題がたくさんあって、一つずつ丁寧にそれを積み上げていったら、いいまちづくりができるのではないかと考えております。

【委員長】

ありがとうございます。中間支援組織については、我々もさんざん議論をしてきたのですけれども。私は必要だと思っています。

ところが、当面、それをまず、とりあえずつくるだけでもなかなか大変なものです。

から。生涯学習課さんがまずは中心となって、その機を担うと。

ぜひ、私はやってほしいなと思っています。そういう専門会議、あるいは、各会議の代表の集まった組織というのは必要だろうなとは思っていますけどね。

【M委員】

私も初めての参加で、どのように自分が関わっていけばいいのかということを考えながらお話を聞かせていただいていたいました。

私は、学校の現場で地域と学校をつなぐという地域コーディネーターという役割をさせていたっている中で、子どもたちが、なかなか家庭ではできない農業での活動など、地域の方にお声かけさせていただいて、学校の中でいろいろな体験をさせていたっているのが多いです。

子どもたちも地域の方と関わることで、例えば、学校の行き帰りの中で、「この間手伝いにきてくれたおっちゃんやな、おばちゃんやな。」という声かけをしているようで、地域とのつながりも出てきているなというのをすごく感じております。

また、手伝ってくださっている方も、「あそこの子やんな。」とかいう話をしながら、すごく世代としては年齢差がともある中で関わってくださっているのですが、実は、いろいろなところでつながりをお互い感じながらやっているなというところが、すごく今は実感として感じています。

老上西小学校は、学校創立3年目の学校なので。地域の方に「ここの学校って、どんなんだろう。」って興味をもっていただきながら、見守っていただいているのだろうなということも感じているのですが。

いろいろな場面で学校の中に入らせていただいている中で、古い地域でお住まいの方、新興住宅地の中でお住まいの方が顔を合わせてお話をされている中で、また、次の活動でまた一緒になって仲よくされている姿が増えていってしまして。地域の輪が狭いところから広いところへ繋がって。それが、また強くなっていくくれたらいいなという思いで、地域コーディネーターとして皆さんと関わりながら、また、意見も聞きながらというところをやっています。

自分が肌で感じていることを、この場面で少しずつお伝えできたらいいかなということを考えています。

【委員長】

ありがとうございます。E委員、お願いします。

【E委員】

私は、3期目ということで。前年度、なかなか参加させてもらえなかったのですけれども。この「みらくるカレッジ」の「本校」、「地域校」のプランとかを見せてもらって。ここまでいいプランを作ってもらっていたのは、大変ありがたいなと思いながら資料を見させてもらったのですけれども。

やはり、僕らが青少年育成についてもなかなか次世代の担い手が見つからず、同じ人がずっと本当にやっけていいのかなと思うことが多いです。市民会議の中でも組織検討委員会というのを設けさせてもらって、役員などをしています。本当にそれぞれの学区の中でやっている事業、一番身近にやはり未就学児、小学生、中学生、大学生も含む青少年の健全育成が一番身近にもっと頑張らなければならない団体かなというふうに思っているのですけれども。

一番そこに関わってもらっている世代の方が、もう仕事を引退して、町内会長を兼任でという方もおられますし、私のように、働きながら自分の子育てをしながら、地域の健全育成を推進しようと学区の青少年育成学区民会議もあります。

やはり、なかなか次の世代を見つけながらやっていくのは、今、一番大変なのかな。PTAさんもそうですし、子ども会さんもそうですし。やはり、子育ての一番近いところの世代が一番苦しんでいるのかなというふうに思ったりします。

こういうプランを見ながら、地域や市のいろいろな方々の協力を得ながら、うまく進めていけたらいいのかなと思います。また、協力も含めて、よろしくお願ひしたいと思います。

【委員長】

ありがとうございます。J委員、どうぞ。

【J委員】

私は、ごみ問題を考える草津市民会議のメンバーとして、毎年地域のふれあいまつり等に入って行って。そして、環境啓発なんかを一生懸命やらせてもらっているのですけれども、会議体のメンバーがそれぞれ講師になれるようなスキルアップをしようということ、そういうことをやっています。特に、このパイロットモデルの環境分野の活動の一つなのですけれども。こういったものを、しっかりと、テキストをしっかりと造って、誰でもがみんな同じように指導できる、やっけていけると。そういう体制を今つくろうとして一生懸命やっているのですけれども。なかなかこれも、メンバーが毎年代わるという状況の中では、難しい状況も出てきていると思います。

もう一つは、高齢化というのは担い手がふえたと考えてもいいのではないかと私は思います。もう65歳か70歳、70歳でも担い手でいいのではないかなと思っています。企業では、社会貢献を担当している部門がどこの企業も大体あると思うのですけれども、そういう部門を担当しておられた方のリタイア組、そういう人たちは、現役時代のスキルを生かして、また、地域に貢献しようということで、今集まってそういう会議をやっているのですけれども。そうすると、そういう人たちが実は、集まっても、一人一人、沢山のことをやっています。

ですが、そういうところに来ない人をどう引っ張るかというのが、課題なのです。そういう意味では、どういう人と知るといふか、そのことが大事で。やはり、人間関係だと思っけるのですけれども。それを引っ張ってくるというのが一番大事かなと今思っ

ています。

少し質問ですけれども、この提案しているパイロットモデルの話なのですけれども。これは、平成31年度からもう地域の推進となっていますが、予算も要求されていると思うのですけれども、具体的なモデル地域とか、その予算も決まっているのかどうかを知りたかったのですけれども。

【委員長】

はい。事務局から回答をお願いします。

【生涯学習課 係長】

地域については、本日の社会教育委員会議で一定方向性が出れば、これから地域に入り、実際に取り組んでいただけたところを探していこうかなと考えているところでございますので、現在、まだ確定はしておりません。

予算につきましても、一定の要求はしているところではあるのですが、その内容としましては、講師の方々の謝礼という形で予算要求をしております。一定、受け皿は用意しているところでございます。

【J委員】

まだ地域は決まっていないのですか。

【生涯学習課 係長】

そうですね。本日、来ていただいている委員各位の中にも草津市に在住の方々がいらっしゃいますので、力添えをいただきながら、地域に入っていければと考えているところでございます。

【委員長】

ありがとうございます。多分、想定されるところはあると思いますけれども。

【生涯学習課 係長】

はい。いくつかはございます。

【委員長】

皆さんのお力添えをいただきたいと思います。

【N委員】

今回初めて関わらせていただいて、この推進イメージの提案書を読ませていただいたときに、広報の部分で、「えふえむ草津」、「ニューズペーパー」、「ホームページ」などが入ってくると思うのですけれども。

アンテナを張っている方、こういう委員になられている方は、何か運営側のサイドで活動をされている方というところには情報が入ると思います。生涯学習課など、いろいろな担当課から直接ダイレクトメールが送られてきて、書面で見るという機会は、私も子育てサークルをしているのであるのですけれども。

市民活動に携わっていない方が触れる機会というのは、子育てしている人間でしたら子ども会の役員をするし、小学校の役員をすることによって、地域と繋がっていくというキッカケはあるのですけれども。やはり、そこの方におりていくときというのは、動員がかかったみたいな会議に行かされるみたいな、ちょっとネガティブな意見での告知になってしまって、本来、こういう素敵な講座を草津は沢山されているのに、それが浸透していないのではと思っています。

私は、仕事で保育士をしているのですけれども。保育園とか幼稚園を管轄している課の方と面談することがあって。結局、どういうスタイル、施策をしても、どう伝えていこうかという広報の部分でやはり頭を悩まされているということをお伺いをして。

このカレッジをつくり上げたときに、その広報をどういう手段をとるかというのをもっと練っていく。私の中で、こういう委員をやるきっかけをくださったのは、実はパールプロジェクトさんなのですね。子どもを育てているときに、子育てサークルにただ行っていた母親なのです。そこにいきなり「パールプロジェクトというのがあるのだよ。」と言われて。「何それ。」っていう感じだったのですけれども。

やはり、公募委員というものが、いったら、市民委員自体を知らないのですね。市民として。「市民委員って何や。」って言われて、「こういうのをしているよ。」と。その中で、5～6人や3人とかあるのですけれども。公募委員というのは必要なんですって。その中に、やはり、こういう子育てのママもいてるように託児もつけるから、どんどん参加して行ってほしいなという未来の図をイメージして、私はメール登録という形でスタートしたのですね。

メールが企画調整課からたまに来ます。思い出したかのように、公募委員があります。そんなタイミングでいいんですけど。何か生活の中に、市からの案内が自分のもとに入るというスタイルが、パールプロジェクトさんが成功したのは、そのような横の繋がりではないかと、見てて思いました。

何かこのカレッジをどこに落としたいかというターゲットを見つけて。それに関係する団体さんにアプローチをしていくというふうに、広い範囲、プラスここに落としたいというターゲットを見つけての広報計画というか、進め方というのをしていくとより広がるのではないかなと思いました。

【H委員】

冊子の総合防災訓練が18日に渋川小学校であります。皆さん、台風21号の被害はございませんでしたか。私のところは、瓦は十数枚飛ぶ、樋は飛ぶ。それから、白壁が2～3か所落ちたりして、今、修繕の順番待ちですね。業者が非常に忙しいので

す。

今、おっしゃった人とのつながりが薄れていく中で、やはり、最近のこの個人主義がかなり普遍した中で。一緒にやれることといたら、安全安心の集まりが一番手っ取り早いかなと思います。

ぜひ、そういうことも利用しながら、この計画されたことが非常にうまく進むような一つの考え方として取り組んでいけたらいいなと思ったりもするのです。

それで、あと問題は、ゆうネットくさつサポーター会議でもいろいろ苦勞しているところなのですが、広報をしても人が集まってくれません。

例えば、「元南海ホークスの野村が講演してくれるよ。」とか言ったら、黙っていても人は集まるのですよ。ところが、「少し遠くの和尚さんが来ました。」とか小難しい話になると、みんな。だから、そうすると、各課から、あるいは、各部から動員するのですよね。聴きに行くように。そんなことをやったことをちょっと思い出すのですけれども。

何か安全安心のほかは、なかなか人がどう理解してくれて参加してくれるか。そのあたりを、もう少し何か手を加える必要があるのかなと思っておりました。

【委員長】

ありがとうございます。G委員、どうぞ。

【G委員】

私、もうすぐ68歳なのです。出身はうどん県、香川県なのです。工業高校を出て、そして会社に入って大阪に守口、門真に行ったら、半年後に工場がこちらに来るということで。ちょうど草津に来て49年になります。

先ほど、L委員がちょっといいお話だったけど。うどん県では、香川県の18年間、草津では49年間なのですけれども。草津は「住みよい町、西日本1位」かな。すばらしい地域となっておりますけれども。

ふと、自分がどうかなと思ったのは、香川県に帰りたいとか。昨日も、仕事をしているのですけれども。山科に住む方が、マンションに住んでいるのですけれども。その方は山科に住んで30年ですけれども、自分は神戸出身で神戸に帰りたいなど。どうしても、生まれた故郷がいいなというのはあるのですけれども。

その中でも、本当に草津に住んで良かったなといえるようになりたいなど。そうなるためには、どういうことをしたらいいかなということを考えていかないといけない。

ただ、私は、町内会長もし、まちづくり協議会の理事や社会教育委員、また、人権擁護委員も兼任しております。また、2年半前から、土日が中心でのサービス業もやっており、イベントが実施されるのは土日なので、だんだんそこへ行く機会が無くなってきました。

本日は、社会教育委員会の第1回の会議ということで、皆さん非常に熱いから、特に公募からされた方は本当に素晴らしい方ばかりで。もう一度、自分自身もこの社会

教育委員会議を通して、もう一度自分自身のレベルアップをしなければと思いました。

特に、今回2期目ということで、今回2期目というのは委員長から、本当に素晴らしい案をつくったということを知りましたので。1期目に作ったので、これを実際2期目にするのだと。今回、これからするのだということを知って。やはり、「DO」、実施をどのようにするか、どのように成果を上げていくかというのが一番大事ということで、自ら2期目をさせてくださいということを知り、人権擁護委員の方で言いましたものですから。本当に、この2年間は正念場だと思いますので、皆さんと一緒に頑張りようと思っています。

【D委員】

私は、草津市で生まれまして、たまたま嫁いだ先も草津市内ということで、60年草津市にずっといます。

私は、正直、草津市が大好きですし、嫁ぎ先も大好きです。まだマンションなどは建設されておりません。風光明媚でございます。私は、そういったところも好きです。

私、N委員と同じで、地域で子育てサークルというのも実はやっております。それはなぜかといいますと、市の方を前にしてあれなのですけれども。私も何年か前に、他市ですけれども子育て支援のところに関わっていたことがあります。やはり、そこでは財政というのわかるのですけれども、「あれはしてはいけない。」「これはしてはいけない。」と。市の中で結構言われまして。もう窮屈で、正直仕方がなかったです。

ということで、私はそれを辞めてから、もうそんな枠はとっぱらって、窮屈なことは嫌だということで。では、自分が住んでいる地域の中でそういうのをやってみようということで、実はやり始めて5年になっているのですけれども。

それでも、最近思いますのは、皆さん、私は0歳児から3歳までの親子で、どうぞいらしてください。楽しいことをしましょうっていうのをやっているのですね。それはなぜかというと、親子の触れ合いをしてもらいたいということと、婦人会というのがなくなりましたので、本当に同じ私なんか小さい町内ですけれども、それをやって初めて、「あ、あそこの奥さんか。」って。「ああ、あそこのお嫁さん。」「あの子は、そこのお子さんか。」っていうのがわかるぐらいでございます。

本当にそういったことがあって、私ですら、「ああ、あの家のお嫁さんやね。」ってわかるぐらいで。正直、皆さん、やはり勤めに行ってはりますし、私もまだちょっと働いたりしていますので。本当に向かいの奥さんと半年ぐらい顔を合わせていないとか。本当に田舎と言われるところでも、そうなのですね。皆さん、勤めに行っておられるのですよ。

ということで、0歳児から3歳児をやっていますけれども、ほとんど皆さん保育園に行かれています。ということで「ああ、いないやん。」という感じです。

昔は、時代の流れでそういった3歳まで、幼稚園に上がるお子さんとかは、家でおばあちゃんが見てはりましたけれども。おばあちゃんも今は忙しいです。おばあ

さんも働いてはります。私も、今、孫を見ていますけれども。

私、今日は市ボランティア連絡協議会というところからやってまいりましたが。この間も、市のボランティアの交流会というのがありました。こちらでも、そこで御一緒させていただいた方がいらっしゃるのですけれども。

今、私思いますけれども。70代が本当にエネルギッシュで活動的です。私、今60歳なのですけれども。正直、考え方的には、昔は60ぐらいになったら皆さん家にいるものだという考えになっていましたが、退職された方がすごい熱いです。その姿を見て、正直、まだまだこれからだと、私は思った次第でございます。

そういった時代の流れ、背景を考えて。やはり、これから草津市のまちづくりというのもやっていっていただかないといけないのではないかと思います。やはり、時代が変わってきているということも念頭に置きまして、そのいろいろな活動を進めていったほうがいいのではないかと思います。

それから、先ほど、Nさんもおっしゃいましたけれども。やはり、いいことをされていても入ってこないです。私は、たまたま草津市の関係した子育てもやっておりますので、いただいた情報は来られたママさんに「こんなものもあるよ。草津市、こんなものもやってはるよ。」と私から発信させていただいています。

でも、そのお母さん方に直に入るということがないのですね。ですから、やはり、いいことをされても、発信力、草津市さんの方でもそのあたりのところを。私もどうやって皆さんにちゃんと伝わるかというのが、ちょっとわからないのですけれども。やはり、魅力ある発信力、魅力あるせっかく草津市、そういうのに今後していただきたいなど、私自身もそういうふうに願っております。よろしく願いいたします。

【C委員】

最後になりました。皆さんの御意見をお聞きしまして、私もいろいろ思うところがありまして。

まず、草津市というものの自体の存在が古い、L委員さんがおっしゃったように、昔ながらの繋がりの濃いところと新しい地域とが混ざっているという点が特色ですし。

そして、今、若いお母さんたちは専業主婦がほとんどいなくて、皆さん働いておられる。そういうところが草津市だと思いますので。新しい考えで、新しい接点をこれから構築していった方がいいのではないかなと。

こちらの昔がよかったとか、そういう考えではなく。新しい草津、オリジナルの新しい考え方というのを皆さんで出して行って、試運転していけばいいのではないかなということ。

もう1点は、今、委員長がおっしゃったように、高齢者ってよく考えると何歳からが高齢者なのだろうかと。この頃、喪中のお葉書をいただく人が96歳とかで亡くなりましたと。そこまでの幅があるのであれば、もう60代、70代というのは高齢者というお言葉を使ってはいけないのではないかと。もう少し違う言葉で、もう少し分けてもいいのではないかと思います。

【副委員長】

いろいろなお声をありがとうございました。

たまたま、昨日大阪で会議があったときに、市議の方から生涯学習の話が出ていまして。市の方でいろいろな講座をやっておられるけれども、ステップアップしていくときの意識がないというのですね。いろいろな講座を単発でやって非常に役に立つのだけれども。それをステップアップして、自分でもまねてやっていこうと思っても、ステップアップの仕方が分からない。講座は沢山あるけれども、活用できないということがあって。

今回、提案された体系的な生涯学習システムというのは、そうした道筋を与えていくものになるかと思います。

そうすると、ここでパイロットモデルという形で提案されているのと同時に、市がこれから発信していく様々な情報。一つ一つの情報、講座の情報をいかにリンクづけていくかといった工夫も、当然、この体系的な生涯学習システムという中で考えていくべき事柄かなと思います。

今、あるさまざまなもの、これをこの中にどう取り組んでいくかという工夫が、もう一つこのパイロットモデルをつくるのとは別に展開していかなければいけないことだろうし。

そうした視点で、市のいろいろな学びの輪が繋がっていく。例えば、こんな講座がありますよというお知らせの中に、そのステップアップした講座のお知らせといったものがリンクされていっても役に立つのではないか。そうした視点を、全体にもっていただくということが、この体系的な生涯学習システムの提案の中の一つの方向として捉えておくべきことかなと、今見ております。

もう一つは、今、3期目になりまして、前は割と理念的な話が多かったもので。その前の1期目ですね。この最後にあったのかな。その時に、たまたま委員の方々、3～4名でグループをつくって、それぞれの社会活動の事例の調査をやったことがあります。その中で、委員の皆様方が色々な議論をしていただいたので、社会教育委員としてまた違う形で自覚された部分があったかなと思います。

パイロットモデルという言い方をしても、やはり、現場をきちんとおさえるということも大切だろうと思いますし。そうした意味からも、できれば、そうした形で地域の現場をきちんと見る、確認する。そうした機会も作っていてもいいし。そうした中で、もう少しこの中でワーキンググループというか、小グループに必要な取り組みがあってもいい。それぞれ、委員の皆様方が、主体的に取り組んでいただけるイメージが一つ、方向としてあるかなというのを今考えていました。

【委員長】

どうもありがとうございました。まだまだ言い足りないこともあると思いますけれども。

本日は、これは何かを決めるというわけではなく、顔合わせが一番の目的でございますけれども。

今後、皆様と、いろいろな御意見をいただきましたことを踏まえながら、具体的に進めてまいりたいと思います。

それでは、最後になりましたけれども。今後のスケジュールと、委員の委嘱ということがございますので、事務局からお願いいたします。

4. その他

①. 各種審議会等の委員依頼について

②. 次回の会議開催日程について

《事務局から説明》

5. 閉会
